

第6学年 組 国語科学習指導案

1 単元 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」

2 指導の考え方

本学級の子ども達は、これまでに「カレーライス」「やまなし」「生き物はつながりの中に」「森へ」の学習を通して、叙述に即して内容を読み取ったり、文章構成の意図を考えながら主題や要旨を読み取ったりする学習をしている。

これらの学習を通して、子ども達は、比喩表現に着目したり、まとめの段落を前の段落とつないだり、文章構成の意図を考えたりしながら読み取る力を身に付けてきている。しかし、ことばを関連させて読み取ることが苦手な子どももおり、基礎・基本を習得させるための指導を積み重ねていく必要がある。

本単元は、教材「平和のとりでを築く」を読む活動をもとにして、「平和」というテーマにかかわる材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習である。

本教材は、原子爆弾によって傷だらけになった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯と、「原爆ドームは後生まで、それを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用、さらには戦争を許さず平和を守っていく強い意志を築くための世界の遺産なのだ。」という考えを伝えている説明文である。

文章構成の特質としては、全体で13の形式段落からなっており、「筆者の思い 原爆ドームがたどってきた歴史 世界遺産への道のり まとめ」というまとまりに分けられる。1段落では、筆者が語り手として登場し、2～11段落では、原爆ドームがたどってきた歴史と世界遺産への道のりが説明され、再び11段落で「わたし」が登場して世界遺産への道のりの思いをまとめている。そして、12、13段落で筆者の伝えたいことをまとめるという構成になっている。

文章表現の特質としては、「原爆ドーム」が「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」「世界の遺産」と変化して述べられており、筆者の認識の変化を表していること、ユネスコ憲章前文に記されている「平和のとりでを築く」という言葉が題名となり、まとめの段落にもキーワードとして使われ、平和を守っていく強い意志を訴えていることがあげられる。

指導にあたっては、まず、単元名、リード文、題名をもとに、戦争や平和についての考えを深め、自分の考えを発信していくという学習の構えをもたせる。次に、題名「平和のとりでを築く」では、「とりで」が味方の城を守るための戦争の用語でありながら「平和のとりで」と書かれている点に注意を向けさせ、冒頭の「平和を築き・・・」の箇所と比べて、その違いの意味を筆者からのメッセージとして受け止めさせる。さらに、冒頭の「～この傷だらけの建物がたどってきた年月を思わずにはいられなかった。」という文から「どんな年月をたどってきたのだろう」という疑問をもたせる。そして、題名と冒頭から「原爆ドームは、世界遺産の仲間入りを果たすまでに、どのような年月をたどってきたのだろう。また『平和のとりでを築く』で筆者は何を伝えたいのだろう。」という読み通しの目を生み出す。

予見の段階では、まず、文章構成を確認し、読み通しの目 に対する予見を ～ 段落をもとに年表にまとめさせ、原爆ドームがたどってきた年月を確かめさせる。次に、 段落を手がかりにして、読み通しの目 に対する予見をまとめ、予見を交流する中で筆者の伝えたいことは 段落を中心に確かめていくことを確認する。そして、 段落の最後の一文をもとに読み確かめの視点をつくり学習計画をたてる。

読み確かめの段階では、 段落の最後の一文「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりで

を築くための世界の遺産なのだ。」をもとにして次の3点を考え、筆者の伝えたいことを確かめさせる。

- ・「それを見る人」とは、誰のことを指しているのか
- ・「平和のとりでを築く」とは、どういうことか
- ・「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか

読みのまとめの段階では、題名に戻って筆者の伝えたいことをまとめ、筆者の伝えたいことに対して自分はどうか考えるか書きまとめさせる。読み方のまとめでは、引用文中のことばを自分の知識とつないで考える読み方、ドームという対象についての書き表し方の変化から筆者の論理をたどる読み方などをまとめる。

発信する段階では、「平和のとりでを築く」の学習や教科書の資料をきっかけとして、戦争や平和についてもっと知りたいこと、考えたいことなどを自分の課題として設定し、調べ、まとめて自分の考えを発信させる。

3 単元の目標

「平和のとりでを築く」で筆者の伝えたいことを読み取ったり、自分で戦争や平和について調べ考えを発信したりすることで、戦争や平和についての自分の見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。

引用文中のことばを自分の知識とつないで敷衍して読む読み方や対象についての書き表し方の変化を読む読み方を身に付けることができる。

事例の取り上げ方を考え、事実と考え・意見を区別して戦争や平和についての自分の考えを書きまとめることができる。

4 学習計画（全14時間）

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
読み通しの目	1	1 単元名やリード文、題名を手がかりに、単元の学習の構えをもつ。	<p>これまでの平和学習や長崎への修学旅行での学習内容を想起させ、戦争や平和について知っていること、思っていることなどを引き出しながら、単元の学習の構えをもたせる。</p> <p>本単元が、説明文の読み、情報の収集、自分の考えの発信という構成になっていることをとらえさせる。</p>
		2 題名を読む。	<p>「とりで」というのは戦争のために築かれる要塞の意味である。その「とりで」という言葉を使い、あえて「平和のとりで」という題名にしていることに問題意識をもたせる。</p>
		3 冒頭（形式段落1）を読む。	<p>題名読みから抱いた疑問をもとに冒頭を読ませる。</p> <p>冒頭を読んで「平和のとりでを築く」</p>

	<p>4 題名と冒頭の読みをつないで読み通しの目をつくる。</p>	<p>の説明文が「原爆ドーム」とよばれる建造物を題材に述べられていることをとらえさせる。</p> <p>筆者が語り手として「わたしは～年月を思わずにはいられなかった。」と語っていることに着目させ、単元名、リード文とつないで読み通しの目を生み出させる。</p>
予見	<p>3 1 全文を読む。</p> <p>2 意味段落に分けて、文章構成をとらえる。</p> <p>1 段落 筆者の思い</p> <p>2～1 1 段落 原爆ドームがたどった歴史と世界遺産への道のり</p> <p>1 2、1 3 段落 まとめ</p> <p>3 読み通しの目 に対する予見を年表にまとめる。</p>	<p>難語句について辞書を引かせたり、歴史的背景について補足説明したりする。</p> <p>段落ごとに、時を表す言葉、事実を表す文末表現、「保存」「世界遺産」「決定」などの言葉をキーワードにまとめさせるようにする。</p>
	<p>4 年表を確かめる。</p> <p>予見1の方向</p> <p>1915年 物産陳列館として完成した。 小学生たちの絵や書の作品展の会場としても多くの市民に親しまれていた。</p> <p>1945年 広島市に原子爆弾が投下され、建物にほど近い約六百メートルの上空で爆発した。 建物は全焼はしたものの、れんがと鉄骨の一部が残り、丸屋根の部分は支柱の鉄骨がドームの形となった。</p> <p>戦後間もない頃 原爆ドームを保存するか、とりこわしてしまうか広島では議論が続いた。</p> <p>1960年 急性白血病で亡くなった一少女の日記がきっかけとなり、市民も役所も「原爆ドーム永久保存」に立ち上がった。 全国から保存を願う手紙や寄付が広島市に届けられるようになり、補強工事が繰り返された。</p> <p>1992年 広島で原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まり、市民中心の活動は全国へと広がった。 世界遺産は、文化遺産と自然遺産を未来へ向けて守っていくための制度である。</p>	

		1996年 世界遺産決定の知らせが届いた。	
		5 読み通しの目 に対する予見を書きまとめる。	文章構成に着目するように助言する。
学 習 計 画	1	1 書きまとめた予見をもとに話し合い、クラスの予見をまとめる。	13段落には、「平和のとりでを築く」というキーワードが入っていること、「記念碑」から「世界の遺産」へと言い方がかわっていること、文末で強く言い切っていることなどから13段落に重点をおけばいいことを確認する。
		<p>予見2の方向</p> <p>原爆ドームは、後生までそれを見る世界中の人々の心に、核兵器の使用、さらには戦争を許さず平和を守っていく強い意志を築くための世界の価値ある遺産なのだ。</p>	
		2 予見を確かめるための計画をたてる。	
		<p>読み確かめる視点</p> <p>「それを見る人」とは、誰のことをさしているのか</p> <p>「平和のとりでを築く」とはどういうことか</p> <p>「世界の遺産」という言い方をしているのは、なぜなのか</p>	
読 み 確 か め	2	1 読み確かめる視点に沿って、書き込みをする。	それぞれの視点について、根拠を明らかにして書き込ませる。
		<p>1 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>「それを見る人」とは、誰のことをさしているのか</p> <p>「平和のとりでを築く」とはどういうことか</p> <p>「世界の遺産」という言い方をしているのは、なぜなのか</p> <p>2 確かめたことについて書きまとめ、発表しあう。</p> <p>3 読み方をふり返る。</p>	<p>「一少女」「市民」「全国」「世界の人々」という叙述をつないで考えさせる。</p> <p>「戦争は人の心で生まれるものである。」という言葉に関連づけて考えさせる。</p> <p>社会科の学習、平和学習、ニュースなどで得た知識とつないで考えさせる。</p> <p>「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」「世界の遺産」という書き表し方の変化から、筆者の論理（認識の変化）を読み取らせる。</p> <p>「なのだ。」という文末表現に着目させ、強い意志を読み取らせる。</p>

読み・読み方のまとめ	<p>1 これまでの読みをふり返り、筆者の伝えたいことをまとめる。</p> <p>2 筆者の伝えたいことを自分はどう受け止めたのか書きまとめる。</p> <p>3 書きまとめたものを発表する。</p> <p>4 学習した読み方をまとめる。</p>	<p>題名に戻って筆者が伝えようとしていたことをふり返らせる。</p> <p>社会科の学習やニュース、修学旅行などで学んだことなどをつないで書きまとめさせるようにする。</p> <p>グループでの交流を取り入れ、友達の見方考え方にふれることで、さらに自分の見方考え方を深めることができるようにする。</p>
自分の考えの発信	<p>6</p> <p>1 筆者の伝えたいことをもとに、戦争や平和について考え、話し合う。</p> <p>2 発信する目的、相手、課題、方法を決める。</p> <p>3 調べることを具体化する。</p> <hr/> <p>1 現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめる。</p> <p>2 「仮の要旨」に説得力をもたせる材料を集める。</p> <hr/> <p>1 「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめなおす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成を考える。 ・構成を見なおす。 	<p>「平和のとりでを築く」の学習や教科書41ページの資料をきっかけに、社会科の学習や平和に関する学習とつなぐなどしながら、平和についてもっと知りたくなったこと、感じたことを出し合って、問題意識を高める。</p> <p>課題はできるだけ具体的なものにするように助言し、一人一人が情報を集め、考えをまとめていけるようにする。</p> <p>調べることを具体化できない子どもには、調べていく中で具体化、焦点化していけるように支援していく。</p> <hr/> <p>「仮の要旨」は、一文でできるだけ明確に書くようにする。</p> <p>事前に活用できそうな図書資料やインターネットのホームページを把握しておき、紹介するようにする。</p> <p>必要に応じて先に「インターネットと学習」を読み、効果的にインターネットを活用できるようにする。</p> <p>いつ、誰が、どんな事実をもとにまとめた資料なのかを確かめるとともに資料の信憑性を確かめさせる。</p> <p>相手にとって分かりやすい事実か、納得させる資料か、自分で理解できているか考えさせる。</p> <hr/> <p>集めた資料をもとに「仮の要旨」を「確定した要旨」としてまとめ直すようにする。</p> <p>まとめりごとに見出しをつけ、つながりを考えさせて効果的な組み立てを考えさせる。</p>

	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の考えを書きまとめる。 2 書きまとめたものを推敲する。 3 推敲したものを発信する。 	<p>段落と段落のつながりを考えて指示語、接続語を適切に使うように指導する。</p> <p>資料の必要なところを選んで書くようにさせる。</p> <p>絵や写真を入れるときは、どこにどのように入れると効果的か考えさせる。</p>
	<ol style="list-style-type: none"> 1 「インターネットと学習」を読んで内容を確かめる。 2 単元の学習の仕方をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の読み方 ・材料（情報）の集め方 ・考えの発信の仕方 3 単元の学習をふり返って感想を書きまとめる。 	<p>教科書やプリントなどをもとに、本単元で学んだことを振り返らせる。</p> <p>本単元での学習を通して深まった「平和」に対する考えや思いを大切にし、今後も「平和」について考えていけるように意識づける。</p>

6 本時の目標

「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」という言葉の意味を考え、筆者の伝えたいことを読み確かめることができる。

引用文中の言葉を、自分の知識とつないで敷衍して読む読み方や、対象についての書き表し方の変化を読む読み方を身に付けることができる。

7 本時指導の考え方

前時までに、子ども達は、筆者の伝えたいことを確かめるために、段落の最後の一文をもとに、3つの視点から書き込みを行い、自分の考えをもっている。

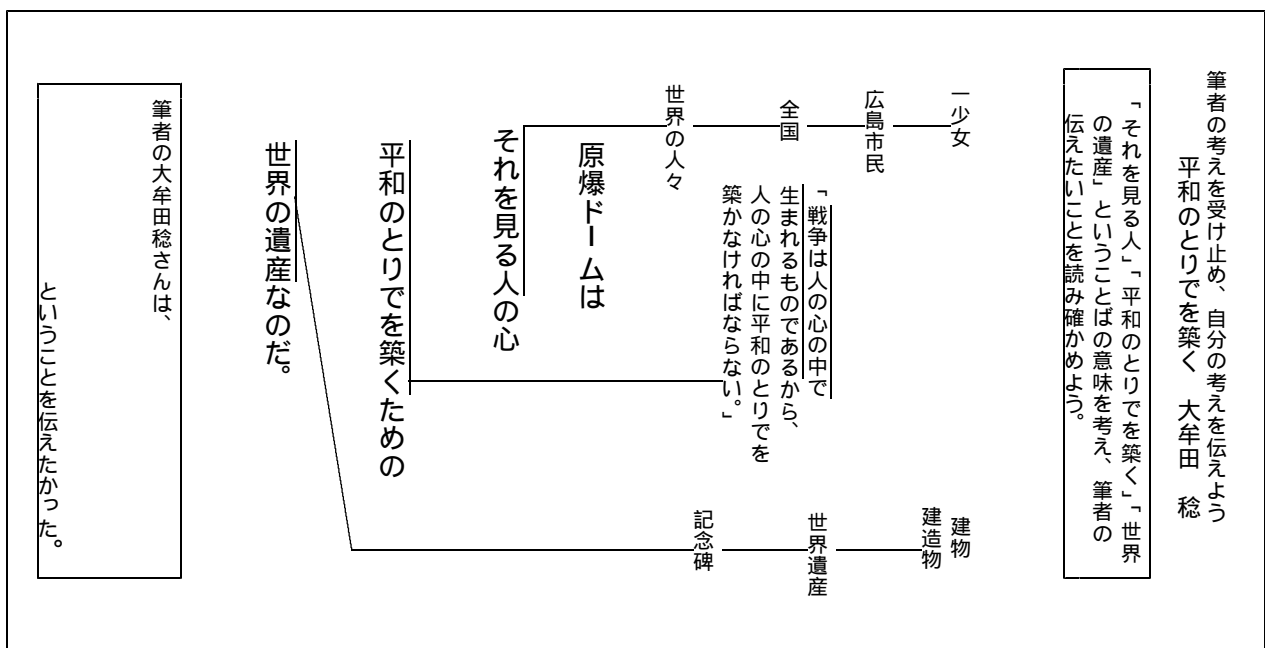
本時は、自分の書き込みをもとに3つの視点「それを見る人」とは誰か、「平和のとりでを築く」とはどういうことか、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか話し合い、筆者の伝えたいことを確かめる学習である。

本時指導にあたっては、まず、掲示物を使いながら本時のめあてを確認し、3つの視点の話し合いの順序を確かめ、子ども達が見通しをもって学習に臨めるようにする。

筆者の伝えたいことを話し合う際には、まず、「それを見る人」とは誰のことかを「一少女」「市民」「全国」「世界の人々」などの叙述とつないで考え、「それを見る人」という叙述の意味を考えさせるようにする。次に、「平和のとりでを築く」とはどういうことかを、ユネスコ憲章の中の「戦争は人の心の中で生まれるものである」と関連付けて考えさせる。「戦争は人の心の中で生まれる」とはどういうことかを、社会科の学習や平和学習、ニュースなどで得た自分の知識とつないで具体的に考え、関連付けることで「平和のとりでを築く」とはどういうことかを読み取らせるようにする。そして、「原爆ドーム」を「世界の遺産」と述べている筆者の考えを「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」という言葉とつないで、同じ対象への書き表し方の変化から筆者の論理をたどって、「原爆ドーム」を後生まで残すべき価値あるものととらえている筆者の考えを読み取らせるようにする。また、文末の「なのだ。」にも着目させ、筆者の強い思いを読み取らせる。

最後に、本時学習のまとめとして、話し合った3つの視点をもとに、筆者の伝えたいことを書きまとめ、本時学んだ読み方をまとめる。

8 板書



9 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 本時学習のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時学習の内容を想起する。</p> <p>(2) 本時学習のめあてを確認する。</p>	<p>掲示物をもとにして、本時のめあてを確認し、3つの視点の話し合いの順序を確かめる。</p>
<p>「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」ということばの意味を考え、筆者の伝えたいことを読み確かめよう。</p>	
<p>2 筆者の伝えたいことを話し合う。</p> <p>(1) 「それを見る人」とはだれのことか</p> <p>(2) 「平和のとりでを築く」とは、どういうことか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「戦争は人の心の中で生まれるものである」と関連づけて <p>(3) 「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか</p> <p>3 本時学習を振り返り、まとめる。</p> <p>(1) 話し合ったことを振り返り、筆者の伝えたいことを書きまとめる。</p> <p>(2) 読み方を振り返り、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識とつないで考えて読む ・対象への書き表し方の変化を読む 	<p>事前に子どもの書き込みを分析しておき、意図的な指名も取り入れて話し合いを展開できるようにしておく。</p> <p>「それを見る人」とは誰のことか「一少女」「市民」「全国」「世界の人々」をつないで考えさせる。</p> <p>ユネスコ憲章の中の「戦争は人の心の中で生まれるものである」と関連付けて考えさせる。「戦争は人の心の中で生まれる」とはどういうことか、自分の知識とつないで考えさせておく。</p> <p>ドームの書き表し方を、「建物」「建造物」「世界遺産」「記念碑」とつないで、筆者がなぜ「世界の遺産」と書き表したのかを考えさせる。</p> <p>文末の「なのだ」にも着目させ、筆者の強い思いが表れていることを読み取らせる。</p> <p>板書をもとに、話し合いを振り返ることができるようにする。</p> <p>筆者の伝えたいことを確かめるときに使った読み方を意識させ、これからの学習に生かすことができるようにする。</p>